

68 ゆ はらじんじゃせいどうわにぐち 湯原神社青銅鰐口



指 定 市有形文化財 昭和52年 3 月31日
 所在地 湯 原
 所有者 湯 原 神 社



わにぐち
 鰐口は神社仏閣の堂前軒下につるされた円形扁平体の銅製または鉄製の楽器で、その下の割れ口の形は鰐の口を開いた様子に似ているため、この名がある。参拝者は鰐口の前に垂れた紐を振り、その表面をたたき鳴らして礼拝をする。

湯原神社の青銅鰐口には「弘治三年丁巳十二月吉日 依田与七郎長繁」の陰刻がある。湯原の領主となった依田長繁が、弘治3年（1557）に湯原大明神に奉納したものである。同与七郎はこれより11年後の永禄11年（1568）に北相木村宮ノ平に諏訪神社社殿を造営しており、いわゆる相木氏と称せられる相木系依田氏である。

記録によると湯原神社は延宝9年（1681）に現在地に移転された、とある。この鰐口は移転前の湯原神社の社地であった和田の森の畑地を耕作中に村人が掘り出し、湯原神社に納めたものである。大きさは、直径21.3cm、厚さ6cm、重さ2.2kgである。